

鳥取県立中央病院 広報誌

# 赤れんが

## 第22号

- 院長コラム
- 特集「人材」
- トピックス
- 診療案内他

### <理念>

質の高い医療を提供し、患者の生命と健康を守ります

### <基本方針>

- 1 私たちは、急性期の高度医療と救急医療を提供します
- 2 私たちは、研修・研鑽に励み、患者に信頼される医療を提供します
- 3 私たちは、他の医療機関との連携を強化し、地域医療の向上に努めます
- 4 私たちは、地域に期待される医療従事者を育成します
- 5 私たちは、健全な経営基盤の確立を目指します

### <急性期病院の役割>

当院は、地域の急性期の患者様を診療させていただき役割があります。急性期の専門的治療が終わり、病状が安定された方は、担当の医師が判断し、責任を持ってお近くの診療所、かかりつけの医師へご紹介いたします。日頃の治療や健康状態を見守る大切な診療所と連携を取り合いますので、ご安心ください。急性期の患者様が一人でも多く外来受診できますように、どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。



大山サマーキャンプ（百ヶ浜を望む）

### 「小児糖尿病大山サマーキャンプ」

院長 武田 倬

小児糖尿病の子どもに初めて出会ったのは、私が研修医2年目を迎えた春でした。S君は中学生、14歳でした。のどの渇きなど典型的な症状の1型（小児）糖尿病でしたのですぐに入院してもらい、教科書に従った治療を行うと元気になるのにそう日数はかかりませんでした。でも、問題は退院後の生活です。

10万人に一人といわれる稀な疾患です。病気がない子どもと比べると普段の生活もですが、学校生活を送るのにも多くの困難が考えられました。毎日のインスリン注射、食事や低血糖への気配りなど、自分の身体を管理しなければならぬことがたくさんあつて、中学生にとって大変なことです。

当時日本では4箇所で行われていた小児糖尿病サマーキャンプが行われていました。このキャンプへの参加が彼にとって最も良い教育の場だということになり、九州大学の糖尿病グループの人たちが運営していた「福岡ヤングホークス」のサマーキャンプに参加することになりました。S君と私は心細さと期待をもち、福岡行きの夜行列車に乗り込みました。

小児糖尿病の子どもがたくさん集う7泊8日のキャンプは、おとなしいS君を変えました。友達もでき、物おじしないで自分の病気の話をしようになりました。インスリン注射も自分ででき、食事のカロリー計算もするようになった。誰より喜ばれたのがご両親でした。

主治医である私もキャンプの意義を教えられた貴重な体験でした。子どもでは糖尿病などの慢性疾患治療は生活の中での自己管理が殊に大切で、そのためには病気の理解と生活上の工夫が必要です。長期間の闘病を支えるには家族や医療者、教育者だけでなく、同じ病気の仲間の方が欠かせません。



あれから約40年、医学の進歩によりガラスの注射器からペン型注射器に、インスリンの種類も増え、自分で血糖も簡単に測れるようになりました。あの頃の子どもたちも大人になって社会で活躍して、現在のキャンプの子らのいいお手本になって、将来への夢や生きる力を与えてくれています。

現在小児糖尿病キャンプは全国47箇所で開催されています。S君と福岡に出かけた次の年から始まった「大山サマーキャンプ」は今年で38年回目、日本の代表的なキャンプの一つとして知られています。これは県立中央病院の皆さんの協力と、鳥取大学・島根大学の医師や学生、日本財団をはじめ多くの方々の支援のおかげです。キャンプの存在が小児糖尿病の子どもたちの、「病気があっても一人の社会人として自立する」ための支えとなっていることを嬉しく感じています。

### 「みんなで育てる地域の名医」

当院は、基幹型臨床研修病院として医師育成の役割を担っています。そして、毎年、10名前後の研修医が当院で医師としてのスタートを切り、2年間、様々な経験を積んで巣立っていきます。医師免許を取得した後、こうした現場での研修が義務付けられているのです。

この間、研修医は、指導する医師の下で疾病や治療を学習し、各種の検査を行ったり、指導する医師について病棟を回診したり、救急外来での診察を行うなど、様々な経験をします。

研修医といっても一人の医師であることには変わりはなく、当然ながら間違った診察や治療は許されません。そのため、指導医の資格を持った医師の厳しい指導の下、研修医は皆、一日も早く患者さんから信頼されるようになるため、日夜努力しています。そういった中で、時に患者さんからの温かい一言や励ましの言葉に大きく勇気づけられています。全国の名だたる名医や、地域の皆さんに信頼されているベテラン医師も、皆こういった若い頃の経験が基になって今日があるのです。

口頃から研修医の成長していく姿を温かい目で見守りいただいています。患者の皆様には、心から感謝を申し上げます。将来の「名医」誕生にぜひご期待ください。

### 「看護学生は未来の仲間」

当院では、「看護学生は未来の仲間」を合い言葉に、看護師免許の取得を目指す看護学生の実習を受け入れています。

今年度から、「看護チームの一員として看護実践能力を身につける」ことを目的とした「統合実習」が始まり、実習時間が増えています。この実習は、実際に現場で行われている看護業務により近い内容となっています。具体的には、

- 複数の患者さんを受け持ち、複数の業務を同時に行う必要があるため、これへの対応としての「複数受け持ち実習」
  - 日中の実習のみでは経験できないことへの対応としての「夜勤実習」
  - 新人の頃から管理的視点を持って働いていく必要があることから「看護管理実習」
- を行っています。

実習を通して、患者さんに看護ケアを行うだけでなく、どのケアを優先して行っていくかを考えるとともに、それぞれの行為の持つ意味もより深く考えて行動できるよう指導しています。

現在、当院で働いている看護師も皆、学生であった頃にそれぞれ患者さんを受け持たせていただき、その時の経験が大切な「看護の原点」になっています。いつの時代も看護学生は患者さんに育てられます。どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

当院では、医学部を卒業し医師免許を取得したばかりの「研修医」や、これから看護師免許を取得しようとする「看護学校の学生」などを実際の医療現場に受け入れ、将来の鳥取県の医療を支える人材の育成に取り組んでいます。

## 特集

# 医療を支える人材

## 【病院を支えるさまざまな職種】

現在、当院には様々な職種の者がおり、それぞれが不可欠な役割を担っています。その中から、今回は、3つの職種を紹介します。

### 〔臨床心理士〕 (がん相談)

「こころの専門家」として、主にがんの患者さんやそのご家族からの相談にお答えしています。例えば、病気の告知に伴うショック、病気を抱えたまま毎日の生活を送る不安、家族や友人に病気のことをどのように伝えたらよいか、などの気持ちに関わる問題を患者さんと一緒になって考えています。普段は、「がん相談支援室(外来棟1階)」にいますので、お悩みの方はお気軽に声を掛けてください。  
※ このほか、当院には精神科及び周産期母子センターにそれぞれ専任の臨床心理士がいます。



### 〔臨床工学技士〕

「医療機器を扱うスペシャリスト」として、様々な医療機器を操作、管理する役割を担っています。特に集中治療室や手術室において高度医療を提供する医療チームには必要不可欠な存在です。安全で安心な高度医療を提供するために昼夜問わず緊急手術などのあらゆる状況に対応しています

### 〔医療アシスタント〕

「医師の事務作業補助者」です。医師がより診療に専念できるよう、また、少しでも長く患者さんと向き合う時間を作れるよう、診療の際にアシスタントとして医師の隣で電子カルテ(パソコン)を操作したり、書類作成など医師の多様な事務作業を補助しています。